

水路新技術講演会 プログラム

日 時:平成 31 年 1 月 17 日 (木)

13 時 10 分~18 時 15 分(12 時 40 分開場)

会 場:中央合同庁舎第 4 号館 共用 220 会議室

住 所:東京都千代田区霞が関 3 丁目 1 番 1 号

主 催:海上保安庁 海洋情報部

共 催:一般財団法人 日本水路協会



◆交通手段◆

東京メトロ 千代田線・丸ノ内線・日比谷線 「霞ヶ関」駅下車、徒歩 5 分

発表【13:10~17:35】

開会挨拶

13:10~13:15 海上保安庁 海洋情報部長 加藤 幸弘

セッション1:南海トラフ研究の最前線

基調講演

(1)13:15~14:05 南海トラフ掘削が切り拓いた沈み込み帯の新しい描像
東京海洋大学海洋資源環境学部 木村 学 特任教授(東京大学名誉教授)

14:05~14:10 (休憩)

招待講演

(2)14:10~15:00 海陸地殻変動データを用いた南海トラフ沿いのプレート間カップリング分布
京都大学防災研究所 西村 卓也 准教授

15:00~15:05 (休憩)

口頭発表

(3)15:05~15:25 南海トラフ海底下で発生するゆっくりすべりの検知を目指して
~海底地殻変動観測と黒潮海洋場~
海洋調査課 海洋防災調査室 横田 裕輔

(4)15:25~15:45 海底地殻変動観測から見えてきた南海トラフ海底下のゆっくりすべり
技術・国際課 石川 直史

(5)15:45~16:05 南海トラフ地震の津波シミュレーション結果から見た瀬戸内海の高釜
形成の要因
海洋調査課 海洋防災調査室 鈴木 充広

16:05~16:15 (休憩)

セッション2: 一般テーマ

- (6) 16:15~16:35 海洋の今を見るために
～海洋状況把握 (MDA) における情報の集約・共有～
海洋情報課 海洋空間情報室 桂 幸納
- (7) 16:35~16:55 AUV「ごんどう」を用いた海洋調査の現在
海洋調査課 大陸棚調査室 長澤 亮佑
- (8) 16:55~17:15 次世代の無人海底探査へ向けた挑戦
～深海域マッピングの国際大会“Shell Ocean Discovery XPRIZE”～
技術・国際課 海洋研究室 住吉 昌直
- (9) 17:15~17:30 一般テーマのポスター紹介

閉会挨拶

17:30~17:35 技術・国際課長 藤田 雅之

17:35 閉会

ポスター展示【13:10~18:15】

ポスター発表（コアタイム：17:35~18:15）

- P01 新たな地震学的現象を捉えるための海底地殻変動観測技術の高度化
海洋調査課 海洋防災調査室 小池 未空時 ほか
- P02 南海トラフにおける海底地殻変動観測の今後の展開について
海洋調査課 海洋防災調査室 河合 晃司 ほか
- P03 豊後水道におけるマルチビーム測深機で得られた海底地形
海洋調査課 森 弘和
- P04 マルチビーム測深における測位・動揺データの高精度化の効果
技術・国際課 海洋研究室 住吉 昌直 ほか
- P05 航空レーザー測量で捉えた南西諸島のすり鉢状の海底地形
海洋調査課 山川 峻 ほか
- P06 Chart Adequacy の評価への衛星画像推定水深（SDB）の適用の検討
技術・国際課 海洋研究室 熱海 吉次 ほか
- P07 諸外国で構築されている鉛直基準面モデル
技術・国際課 海洋研究室 松本 良浩 ほか
- P08 AOV による潮位解析の方向性
環境調査課 土屋 主税 ほか
- P09 海洋短波レーダーの流向・流速値による相模湾の流れの分析
技術・国際課 海洋研究室 宗田 幸次
- P10 新造27メートル型測量船「はましお」
海洋調査課 大泊 理八 ほか
- P11 海洋データの利用促進と日本海洋データセンター
海洋情報課 馬場 典夫 ほか
- P12 South and Pacific Centre (SaWPac)におけるSeabed2030への取り組み
技術・国際課 海洋研究室 小川 遥 ほか